

# アイルランドの家族史研究に関わる資料について

清水 由文\*

## はじめに

本稿の目的はアイルランドの家族史を追究するために必要な資料の性格を検討することにある。なぜなら日本においてこれまで家族史に関連するアイルランド資料の検討がほとんど行われていないからである。そこで以下ではアイルランド家族史に関連すると思われるアイルランドの人口センサス、英国議会資料、アイルランド政府関係資料や刊行物などを中心にその特徴を検討したい。またそれらの資料から家族史研究に対してどのような情報を引き出すことが出きるのかも追究してみたい。

なお筆者はアイルランドで資料収集に際してダブリン大学トリニティ・カレッジ近代史学科カレン教授 (L. M. Cullen) から多大な協力をえていることに感謝の意を表しておきたい。

## 1. アイルランドの人口センサス

まずアイルランドの家族史を検討する上で一番重要な史料であるといえる人口センサスをとりあげよう。アイルランドの人口センサス (Census of Ireland) はイギリスのセンサス開始時期である1801年より少し遅く1821年に開始されるが、それは他のヨーロッパ諸国 (ベルギーの1829年、ノルウエーの1835年、フランスの1836年) に比べてかなり早かったといえよう。アイルランドの人口センサスはそれ以降原則として10年毎に行われ、19世紀には1831年、1841年、1851年、1861年、1871年、1881年、1891年に、20世紀になり1901年、1911年、1926年、1936年に実施されている。そして、それは第二次大戦以降にはほぼ5年毎になり1946年、1951年、

1956年、1961年、1966年、1971年、1979年、1981年、1986年、1991年、1996年にそれぞれ実施されている。1911年までのセンサス結果は英国議会資料に含まれているし、それ以降のセンサス結果はアイルランド政府により刊行されているので、われわれはそれを利用することができる。

1911年までのセンサス結果は総括編と各州毎の結果を4つの地方別 (アルスター、マンスター、コノハト、レンスター) に纏めて編集されているのである。各州の結果をみると、はじめに簡単な要約がみられ、つぎに大きく面積・家屋・人口、年齢、婚姻状況、職業、出生地、宗教、教育、移民の項目に区分されており、それぞれの項目が救貧区連合 (Poor Law Union)、選挙区 (District Electoral Division)、町、タウンランド (Townland)<sup>1)</sup> 単位で集計されている。

1926年以降現在までのセンサス結果は各年度において若干相違するものの、それは州別の編集ではなく項目別の編集に変更され、さらにその内部で州別に集計されているのである。1936年の場合には、一般報告、地域編、家屋編、地域別による年齢・孤児別・夫婦の地位編、職業・産業別による年齢・夫婦の地位編、産業編、職業編、宗教・出生地編、ゲール語編に分類されている。その後1966年以降家屋編に世帯構成が新たに付加されるようになる。1981年の場合の

1) タウンランドは「むら」と訳される場合もあるが、ここではそのままタウンランドとしておいた。タウンランドはアイルランドで最小の行政単位であるが、現在6万ぐらいあると言われている。その規模は最小のアーマ州の1エーカーから、最大のメイヨー州の7012エーカーまでかなりの差がみられる。しかしそれは日本の村落のように自治的組織を持っていない。その起源は古代の氏族制度、アングロ・ノルマンのマナー、1600年代のイギリスの植民地としての移民などと関連している [Connolly S. J., (ed.), 1998, 547]。

集計結果は第1巻, 地域編, 第2巻, 年齢・婚姻編, 第3巻, 世帯構成・家族単位編, 第4巻, 経済的地位・産業編, 第5巻, 宗教編, 第6巻, ゲール語編, 第7巻, 職業編, 第8巻, 家屋編, 第9巻, 居住地・移民・出生地編, 第10巻, 教育・科学・技術編, 第11巻, 婚姻による出生率編という構成になっている。それ以降のセンサス結果は同様な編成になっているが, 1986年から第1部には前述した1981年のような構成による結果, 第2部には26州の地域人口レポート(それぞれ第1巻と第2巻という2部構成になる)という詳細な結果がみられるという二部体制を採用している。さらに1991年にはデーターのコンピューター処理により, これらの二部体制に加えて, 小地域人口統計 (Small Area Population Statistics) が選挙区単位あるいはタウンランド単位で入手できるようになった。

しかし, このように最近では詳細にわたるデーターが入手されるようになったものの, 基本的にはそれらの結果から州, 郡 (Barony), 救貧区連合, 教区, 選挙区を単位とした人口, 婚姻状況, 家族員数などの情報を得ることができるに過ぎない。つまり日本の国勢調査結果と同じくそれらの結果が再集計できないという性格をもつゆえに, われわれが必要としている家族情報をそこから入手することには限界があるものといえる。そこでわれわれは人口センサスの原簿 (Census enumeration) にまで遡及しなければならないのである。

アイルランドのセンサス原簿のうち1861年, 1871年, 1881年, 1891年の各原簿のすべては早い段階で焼失している。1821年, 1831年, 1841年, 1851年の各原簿も1922年の国立公文書館の火事でそのほとんどが焼失してしまったが, その一部は現在国立公文書館 (National Archives) に保存されている。1821年の原簿はキャヴァン州, ファーマナー州, ゴールウェー州, ミーズ州, オファリー州の一部が残っているにすぎない。その原簿には基本的に氏名, 年齢, 職業, 世帯主との関係, 土地保有面積, 家屋の階数という事項が見られる。1831年の原簿は現在デリー州のみに残存するに過ぎないが, 1821年の事項に宗

教の事項が付加されている。1841年の原簿は唯一キャヴァン州キラシャンドラ教区のみが完全に保存されている。オニールはその資料により飢饉以前の家族と農場に焦点をおいてアイルランド農村の変容を明らかにしている [O'Neill, K., 1984]。

そのセンサスでは氏名, 年齢, 職業, 世帯主との関係, 結婚の日付け, 読み書きの能力, 家族員の欠如, 1831年以降死亡した家族員という事項が見られるが, この形式がアイルランド自由国成立までの人口センサスの原型になったものといえるのである。そして1851年の原簿は現在北アイルランドのアントリム州の一部に残存しているに過ぎない。

以上のように1821年から1851年にかけてのセンサス原簿はかなり限定された状況で残存しているに過ぎず, われわれは完全に保管されている1901年と1911年のそれをつぎに検討しなければならない。本来公文書は100年間公開されないという原則があるのだが, アイルランド共和国政府は1901年と1911年の人口センサス原簿がイギリス植民地時代のものであると見なして公開したのである。それは現在公文書館で保管・公開されているが, 家族史研究の第一級の資料といえる。1901年の原簿は現在マイクロフィルム化されて容易に利用できるが, 1911年のそれはマイクロフィルム化され始めたばかりであり, その完成までにかかなりの時間が必要と思われる。

1901年と1911年のセンサス原簿を公文書館で利用する場合, まず州別のリストが用意されており, つぎに選挙区を検索すれば, そこには選挙区に含まれているタウンランドがあり, タウンランドにそれぞれ参照番号と世帯数が記入されているのである。両年度の原簿には表1のような様式(A)の家族申告書があり, そこには氏名, 世帯主との関係, 宗教, 読み書きの能力, 職業, 年齢, 婚姻状況, 出生地, 英語とゲール語の会話能力の各事項が並んでいるのである。つぎに, 様式(B1)には家屋と家族の2つの大項目があり, 家屋の事項には個人・公共の建物の区別, 居住用以外の建物数, 実際の居住の有無, 居住家屋の状況(壁, 屋根, 部屋数, 窓数,

表1 1911年アイルランドセンサス原簿

| CENSUS OF IRELAND, 1911.   |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
|--|-----------------------------|-----------------------|---|------------------------------|----------------------------------|--|--|-------------|-----------------|-----------------------------------|--|--|--|--|
| Two Examples of the mode of filling in this Table are given on the other side.   |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| FORM A.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| RETURN of the MEMBERS of this FAMILY and their VISITORS, BOARDERS, SERVANTS, &c., who slept or abode in this House on the night of SUNDAY, the 2nd of APRIL, 1911. |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| NAME AND SURNAME.  | RELATION to Head of Family. | RELIGIOUS PROFESSION. | EDUCATION.                                | AGE (last Birthday) and SEX. | BANK, PROFESSION, OR OCCUPATION. | PARTICULARS AS TO MARRIAGE.                  |  | WHERE BORN. | IRISH LANGUAGE. | If Deaf and Dumb; Blind; or Lame. |  |  |  |  |
|  |                             |                       |   |                              |                                  | Whether Married, Single, Widowed, or Single. | State for each Married Woman entered on this Schedule the number of—<br>Children born alive to her since her marriage.<br>Total Children born alive. |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| Christian Name.  | Surname.                    |                       |   | Age of Males.                | Age of Females.                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 1.   | 2.                          | 3.                    | 4.  | 5.                           | 6.                               | 7.   | 8.   | 9.          | 10.             | 11.                               |  |  |  |  |
| 1. <i>James</i>  | <i>McMahon</i>              | <i>Head of Family</i> | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>50</i>                    | <i>—</i>                         | <i>Farmer</i>                                | <i>Married</i>   | <i>27</i>   | <i>6</i>        | <i>5</i>                          |  |  |  |  |
| 2. <i>Ann</i>  | <i>McMahon</i>              | <i>Wife</i>           | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>—</i>                     | <i>52</i>                        | <i>—</i>                                     | <i>Married</i>   | <i>—</i>    | <i>—</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 3. <i>Mary Anne</i>  | <i>McMahon</i>              | <i>Daughter</i>       | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>—</i>                     | <i>19</i>                        | <i>—</i>                                     | <i>Single</i>  | <i>—</i>    | <i>—</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 4. <i>Thomas</i>   | <i>McMahon</i>              | <i>Son</i>            | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>18</i>                    | <i>—</i>                         | <i>—</i>                                     | <i>Single</i>  | <i>—</i>    | <i>3</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 5. <i>Pat</i>  | <i>McMahon</i>              | <i>Daughter</i>       | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>—</i>                     | <i>17</i>                        | <i>Scholar</i>                               | <i>Single</i>  | <i>—</i>    | <i>—</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 6. <i>John Joe</i>   | <i>McMahon</i>              | <i>Son</i>            | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>15</i>                    | <i>—</i>                         | <i>Scholar</i>                               | <i>Single</i>  | <i>—</i>    | <i>—</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 7. <i>Michael</i>  | <i>McMahon</i>              | <i>Son</i>            | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>14</i>                    | <i>—</i>                         | <i>Scholar</i>                               | <i>Single</i>  | <i>—</i>    | <i>—</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 8. <i>Nate</i>   | <i>O'Connell</i>            | <i>Servant</i>        | <i>Catholic Church Reads &amp; writes</i> | <i>—</i>                     | <i>28</i>                        | <i>Domestic Servant</i>                      | <i>Single</i>  | <i>—</i>    | <i>—</i>        | <i>—</i>                          |  |  |  |  |
| 9.   |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 10.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 11.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 12.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 13.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 14.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |
| 15.  |                             |                       |   |                              |                                  |  |  |             |                 |                                   |  |  |  |  |

I hereby certify, as required by the Act 10 Edw. VII., and 1 Geo. V., cap. 11, that the foregoing Return is correct, according to the best of my knowledge and belief.

*James McMahon* Signature of Head of Family.

*James McMahon* Signature of Enumerator.

I believe the foregoing to be a true Return.

(出所) National Archives, Dublin

家の等級など), 他方家族の事項には世帯主氏名, 家族が占有する部屋数, 家族員数, 土地保有者の名前などがそれぞれ一覧表の形態で示されている。様式(B2)は居住以外の建物数および農場の建物(牛小屋, 豚小屋, 家禽小屋など)が世帯毎の一覧表で示されている。また様式(N)はタウンランド単位で世帯毎の居住家屋数と各家単位の家族数, 男女別家族員数, 男女別宗教の一覧表として示されているのである。

以上のような事項を持つ人口センサスからわれわれはどのような情報を引き出すことができるのであろうか。ここでは家族史に関連する変数をみれば, 1.世帯員数, 2.世帯主との関係, 3.男女の区別, 4.宗教, 5.主業, 6.副業(もしあれば), 7.婚姻の地位, 8.婚姻期間, 9.現在の婚姻により出生した子供数, 10.生存している子供数, 11.出生地, 12.ゲール語と英語の知識, 13.個人的疾患, 14.現在の居住地, 15.現在の居住地の選挙区, 16.家の階級, 17.家族により占有されている部屋数, 18.土地保有状況, 19.家族のタイプという19の変数を挙げるができる。とくに家族タイプは貴重な変数である。な

ぜなら人口センサス結果で世帯分類が初めて行われたのが1961年からであり, それは筆者のテーマである直系家族の研究には不可欠な変数なのである<sup>2)</sup>。

表1は筆者の調査しているテッペレアリー州クロヒーン教区シャンラハンのミーハン家のセンサス原簿である。彼の世帯は8人の世帯員からなる基本的には核家族であるが, 血縁者以外に28歳の女性で未婚の家内サーヴァントがいる。夫婦は結婚して21年, 夫の初婚年齢が29歳, 妻が31歳という情報が得られる。またこの世帯には出生した6人の子供のうち5人(息子が3人, 娘が2人)がおり, その子供達すべてが未婚であることがわかる。世帯主は農民であり, すべての世帯員が州内で出生し, すべて読み書きができ, そのうち夫婦は英語とゲール語ができるという情報を得ることができる。われわれはこのような情報からアイルランドの家族イメージを作ることができるのである。そしてこのよう

2) 筆者の問題関心については拙著, 「アイルランドにおける直系家族の一考察」(桃山学院大学『社会学論集』, 27-3, 1994)を参照のこと。

なセンサス原簿からタウンランド単位あるいは選挙区単位で、上述した変数の単純集計およびクロス集計をすることによりセンサス結果から得られない情報を導き出すことができるとともに、具体的な事例をとおした質的情報を得ることのできるものである。

## 2. 教会記録

アイルランドにおける教会簿冊 (Parish Register) はローマカトリック教会、プロテスタントのアイルランド教会、長老派教会、メソジスト派教会、クエーカー派教会に分類されるが、ここではカトリックとアイルランド教会の2種類の教会簿冊に限定して検討しておきたい。アイルランド共和国の場合にはカトリックが大部分を占めるが、一つのタウンランドあるいは選挙区を調査対象にする場合には両教会が混在している場合があり、その時には両方の教会簿冊を資料とする必要がある。

まずカトリック教会教会簿冊で一番古いのはウォーターフォード州やゴールウェー州で1671年から記録があるものの、地域において相違しており、筆者の調査しているドニゴール州グレンコルムキル教区では1879年以降の教会簿冊、テッペレアリー州クロヒーン教区では1814年以降の教会簿冊が教会に保存されているのである。カトリックのレジスターは主に洗礼と婚姻記録であるが、埋葬の記録も見られる場合もある。それらの洗礼と婚姻記録はラテン語か英語で記載されているが、ゲール語地域ではラテン語が用いられている場合もある。

洗礼のレジスターから子供の誕生日および洗礼日、子供の名前、父親の名前、母親の旧姓、名付け親の名前、両親の住所、神父名などの情報を得ることができる。また婚姻記録から婚姻日、婚姻した人の名前、立会人、居住地住所、各人の年齢、職業、父親の名前などの情報が得られるのである。

アイルランド教会の教会簿冊はカトリックのそれよりも古く1634年に遡ることができる。しかし、大部分の開始時期は1770年から1820年ぐらいであると見られており、ドニゴール州グレン

ンコルムキルの場合には1827年が一番古い教会簿冊である。

アイルランド教会の教会簿冊には洗礼、婚姻、埋葬の記録から構成されている。まず洗礼の記録には子供の名前、父親の名前、母のクリスチャン名、司った聖職者の名前が明記されている。婚姻記録の場合には法律婚のみが記載され、それは基本的に結婚したカップルの名前、司った牧師名が主な項目で、当事者が同じ教区であれば住所もわかる。そしてその記録には結婚予告 (marriage banns) の記録も含まれている。なお1845年以降職業、住所、父親の名前も明らかになってくる。

以上の19世紀までの教会簿冊は国立図書館、各地の先祖調査機関で閲覧できるが、それ以降から現在にいたる教会簿冊はほとんど直接各教会に保管されているので、われわれはその教会簿冊を直接教会で閲覧する必要がある。

## 3. 英国議会資料

英国議会資料はアイルランド史を研究する場合には第1級の資料といえるが、アイルランドの家族史を検討する場合にはまず人口センサスの結果がそこに含まれていることは先述したところである。しかし、それ以外の家族史関連の資料では貧困調査と家族の規範的側面を検討する時に必要な土地関係、農業統計関係に限定されてくるといえる。そこでここでは貧窮調査委員会による貧困調査報告と農業統計に限定して検討しておきたい。

### ① 貧困調査報告

『アイルランドにおける貧困階級調査報告書 (Reports from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland, 以下単に『貧困調査』と呼ぶ)』は、イギリスで有名であるブースの『ロンドンにおける民衆の生活と労働』(1889-1902年)より早く、しかもアイルランドの大飢饉より以前の調査であり、その点でそれは当時の家族生活を明らかにしてくれる貴重な資料といえる。すでに社会学では米村昭二教授によりこの

資料が利用されて、大飢饉以前における農民家族の婚姻に関する唯一の研究が行われているのである〔米村, 1981〕。この『貧困調査』は膨大な報告書であるので、ここでは資料の簡単な紹介に留めざるえない。

まず『貧困調査』の構成をみれば、それは大きく3つの原則で編成されている。すなわちそれは第1に貧困階級の状態と原因、第2に貧困に影響する法律と慈善制度、第3に救済措置の示唆という3つの原則であり、それに沿って3つの報告書から構成されているのである。とくに第1次報告書は膨大であり、それは第1次報告書の概説(9ページ)と793ページに及ぶ資料編である付録(Appendix A)とそれ以外に分冊になっている(B)から(H)の付録により構成されている。しかし、その付録とそれに付属している補遺(Supplement)の資料は主に質問に対する回答形式から構成されており、それはわれわれにとって貴重な生の証言録資料なのである。

付録(A)には1.見捨てられた子供や孤児、2.非嫡出子と母親、3.若い子供をもつ未亡人、4.生まれ付きの疾患あるいは無能力者、5.自分達の財産を病気で稼げない貧困者、6.仕事にあふれた人々、7.救済の対象としての浮浪者と言う項目が含まれており、それぞれの項目が州別、教区別に記述されている。その付録(A)と同じような項目の補遺(315ページ)があり、それは質問による回答の証言録を一覧表の形式で記載したものである。

付録(B)には医療的救済が主に取り上げられているのである。それには、まず一般報告が取り上げられ、つぎに各論として1.薬局の状況、2.熱病の病院の状況、3.州の病院の状況、4.精神病院の項目があげられ、それぞれの項目ごとに州、教区別の記述が行われている。

付録(C)は2部構成になっているが、第1部ではベルファースト、コーク、ドロヘダ、ロンドンデリー、バンドン、リムリック、ウォーターフォードという都市部を各項目別に記述する方法がとられている(122ページの付録と63ページの付表)。その項目に関してベルファーストを例に見れば、それは1.人口・貿易・製造業、2.

貧困の状態(非嫡出子、捨て子など)、3.雇用状態、4.慈善団体の状態、5.移民、6.質屋業、7.アルコールの消費量を上げることができる。他の諸都市もほぼ同じ項目が見られる。第2部ではダブリンが第1部で取り上げられた項目について記述されており、それに政府の援助を受けていない種々の慈善団体の活動が取り上げられている(119ページの付録と63ページの統計)。

付録(D)では郡単位で1.雇用者の所得、2.零細借地農(cottier)の土地保有の特徴や小作料の支払い形態など、3.女性と子供の雇用、4.労働者の支出の項目に従って記述がみられ(113ページ)、それに393ページの補遺がある。

付録(E)では(109ページ)、1.食物、2.コテージや小屋、3.衣服や家具、4.質屋や貯蓄銀行という生活状況が特定の郡、教区、タウンランド毎に記述されている。また付録Eの補遺(393ページ)に農業労働者の生活状況が取り上げられているが、それは質問に対して回答するという証言録の一覧表として示されている。

付録(F)には、1.コノエーカー(conacre, 11ヶ月借地農)、2.小保有の小作人、3.農場の統合と小作人の追い出し、4.移民、5.地主と小作人、6.農業の特徴と状態、7.税金、8.道路の状態、9.農業の特徴と現状についての観察という6項目に沿って、郡、教区の記述が行われているが(423ページ)、それに393ページの補遺が見られる。

付録(G)の前に付録(D)、(E)、(F)に関する357ページに及ぶ補遺がある。付録(G)は移民問題に集中させており(168ページ)、それは主にグレート・ブリテンへのアイルランド移民の特徴、アイルランド移住者によるグレート・ブリテンへの移民の影響、イギリス人の生活条件にたいするアイルランド居住者の影響などが取り上げられている。

付録(H)は2部構成であるが、第1部(11ページ)には貧民救済のためのボランティア組織により推進される理由が挙げられている。第2部をみれば(42ページ)、付録(D)、(E)、(F)に含まれている項目に関する証言録が掲載されているのである。そしてそこには農村人口の分

布、小作農民の生活、零細借地農、コノエーカー、土地の区画割、小保有の統合、農場規模、小作料、地主とミドルマン、在村地主と不在地主、移民などの証言録が含まれている。

つぎに第2次報告書を見れば(18ページ)、これは医療制度、捨て子の収容病院、医療担当の官庁および見捨てられた子供のサポートなどが取り上げられている。第3次報告書(31ページ)ではグレート・ブリテンとアイルランド農業労働者の比較、アイルランドに適合しないイングランドのワークハウス制度、施設外での強制労働プランの導入、貧窮のための救済、アイルランドの改良および現時点での貧困の救済というテーマが取り上げられている。

以上において『貧困調査』の輪郭を描写したものの、それらは膨大な資料から構成されているのであるが、『1835年－1839年のアイルランド救貧法委員会報告の索引(631ページ)』が1巻にまとめられており、その索引により膨大な資料が利用しやすくなっている。とはいえそこから何を引き出すことができるかという問題に対してここでは簡単に答えられそうにない。

そこで付録(H)の第2部から婚姻年齢を例として検討してみたい。たとえば労働者の婚姻年齢の記述をみれば、それは西部地域であるゴールウェーでは18歳－21歳で、レイトリムでは16歳－22歳、メイヨーとスライゴーでは通常20歳以下、ケリーでは18－22歳で結婚するようであり、それらの地域ではかなり早婚であることがわかる。他方東部地域であるダブリンでは26歳、キルケニーとミーズでは20－25歳、ラウズでは25－30歳、ウィックローでは23－28歳という遅い婚姻年齢が認められる〔Poor Inquiry, Appendix(H)-Part II, 13-4〕。この婚姻年齢の差異には地域性が顕著に認められるのであり、それは貧困である西部地域と経済的条件の良い東部地域の経済的相違を反映しているものと判断されよう。このように家族史に関連すると思われるのは、付録(A), (D), (E), (F), (H)とそれに付属する補遺における家族、農業関係の生の証言録資料であるといえよう。

## ② 農業統計

農業統計自体は家族史研究と直接関連しない。しかし特定のコミュニティの家族史を検討する場合には、そのコミュニティの資料の1つとして必要になる。英国議会資料に含まれている『アイルランドの農業統計(Agricultural Statistics of Ireland)』で一番古いのは1854年であるが、それ以前には『農業生産報告書(Returns of Agricultural Produce in Ireland)』が1847－56年まで存在し、1851年のそれは同年の人口センサスと一緒に実施された本格的な報告書である。そしてそれ以降農業統計は1901年までほぼ毎年継続して行われている。さらにそれ以降では1907年、1910年、1912年、1915年の農業統計の存在を確認している。そこでたとえば1857年の農業統計をみれば、第1部は農産物の概況であり、そこには全国の農作物の年度別耕作面積、州別農作物面積、家畜数、州別保有規模別農家数などがみられる。第2部は家畜の概況であり、そこには馬、ラバ、牛(2歳以上、1歳－2歳、1歳以下)、羊、豚、山羊、鶏の数量(それぞれ年次別)、地方別および州別家畜数、保有している家畜の価値(州別)が取り上げられている。第3部は製粉機による脱穀(州別)、それに必要な雇用労働力が取り上げられている。それらの概説に対して詳細な200ページの表が添付されている。

以上の英国議会資料に含まれる農業統計は同じような指標による統計が見られるのであり、それらからわれわれはアイルランド独立以前の農業統計の時系列を作成することができるのである。

アイルランド自由国成立後には、1928年に『農業統計1847－1926年』が作成され、それらから80年間にわたる農業統計が時系列的に把握できるのであり、それは非常に便利である。それ以降1935年に『農業時計1927－1933年』、1960年に『農業統計1934－1956年』、1962年に『農業統計1960年』がそれぞれ政府から刊行されており、それらにより1960年までの時系列的な統計を利用することができる。また1960年以降は1930年代から刊行されている『統計概要(Statistical

Abstract)』各年版の農業・林業・漁業・土地購入項目における統計を利用することができる。さらに1994年には『農業センサス1991年』の2分冊(総括結果と農村地域結果)が刊行され、1997年には『飢饉以降の農業』が刊行されているが、とくに後者はアイルランド農業の飢饉以降である1847年から1996年までのアイルランド農業統計であり、それはアイルランド農業の時系列を把握しうる重要な資料といえる。

以上で『貧困調査』と『農業統計』の特徴を検討したのであるが、これ以外の英国議会資料には農業関係として有名な1845年の『デヴォン・コミッション (Occupation of Land: Reports from Her Majesty's Commissioners of Inquiry into the State of the Law and Practice in respect to the Occupation of Land in Ireland)』の資料や1906~8年に約5800ページに及ぶ膨大な資料として刊行された『アイルランドにおける貧困蝸集地域に関する王立委員会報告書 (Royal Commission on Congestion in Ireland, Report of the Commissioners)』があるが、ここでは紙幅の関係で割愛せざるをえなかった。しかし両報告書ともにアイルランド歴史研究および家族史研究には重要な資料といえよう。

#### 4. アイルランド政府関係資料

##### ① 地方税課税評価簿

土地・家屋を税金の側面から評価した資料として十分の一税課税簿 (Tithe Applotment Books) と地方税課税評価原簿とがある。十分の一税課税簿はアイルランド教会による税金としての土地評価であり、それは1823年に開始され1838年に廃止されるまで実施されたのである。現在それはマイクロフィルム化され、公文書館や国立図書館で利用できる。その資料からその時期のタウンランド名、土地保有者、土地面積、課税額、エーカー単位評価額の情報、場合によっては地主、土地生産性、1823年の小麦・オート麦の平均価格などの情報も得られる。そしてその評価は農村部における農地に対してのみ実施され、都市部や町部では行われていないので

ある。この税金の評価はマンスターでは税金がじゃがいも畑には課せられたが、牧草地には課税されなかったという免除対象に違いが認められるなどの理由からはなはだしい不平等を生み出している。したがってそれらの情報には限界が認められるのである。[Grenham, J., 38]

現在土地税評価局 (Valuation Office) には3種類の地方税課税評価原簿が保管されている。それは土地査定覚書帳 (Field Books)、巡回査定員評価原簿 (Perambulation Books)、グリフィスの地方税課税評価原簿である。まず土地査定覚書帳をみれば、それは1838年に作成された最初の土地課税評価簿であり、それ以外の居住家屋覚書帳 (House Books)、土地保有覚書帳 (Tenure Books) とセットであったものである。土地査定覚書帳にはタウンランド毎に土地番号、土地区画の特徴、土地の規模の事項が記載されている。とくに査定員により各土地区画に「緑の良い牧草地」、「ボックのある牧草地、池もある」という土地の特徴が記載されており、それは重要な土地に関する情報であると言える。

Perambulation Books (1853) はつぎのグリフィス地方税課税評価を編纂する過程で作成されたものである。それは巡回査定員が地方税課税評価額を土地や居住家屋について査定する時に、タウンランド単位で農地や家屋の収益力に関係する事項を記載したものである言われている[松尾, 1998, 78]。そこには土地占有者、地主名、保有財産(土地・家屋など)、土地・家屋評価、小作料、査定員の観察記録が記載されている。とくにこの巡回査定員の観察記録が参考になる資料といえよう。

グリフィスの地方税課税評価は地方税を算定する目的で1842年の保有財産法 (Tenement Act) にもとづいてアイルランドにおけるすべての土地と建物である財産に対する統一した評価をするために実施されたのである。そして地方税課税委員会の委員に指名されたのがグリフィス (Richard, Griffith) であった。彼は当時採掘技術者およびアイルランド・ロイヤル・アカデミーの地質学の教授であった。その評価法は彼がスコットランドで観察したものであり、実

表2 グリフィス地方税評価簿

**Valuation of Tenements.**

ACTS 15 &amp; 16 VIC., CAP. 63; 17 VIC., CAP. 8; AND 19 &amp; 20 VIC., CAP. 63.

**COUNTY OF DONEGAL.****BARONY OF BANAGH.****UNION OF GLENTIES.****PARISH OF GLENCOLUMBKILLE.**

| No. and Letters of Reference to Map. | Names.                               |                    | Description of Tenement.  | Area.           | Rateable Annual Valuation. |                | Total Annual Valuation of Rateable Property. |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------|---------------------------|-----------------|----------------------------|----------------|--|
|                                      | Townlands and Occupiers.             | Immediate Lessors. |                           |                 | Land.                      | Buildings.     |  |
|                                      | <b>BRADE UPPER.</b><br>(Ord. S. 81.) |                    |                           | <b>A. R. P.</b> | <b>£ s. d.</b>             | <b>£ s. d.</b> | <b>£ s. d.</b>                               |
| 1                                    | Owen Gillespie.                      | Thomas Conolly.    | House, office, and land.  | 11 1 0          | 0 15 0                     | 0 5 0          | 1 0 0  |
| 2                                    | John M'Nelis.                        | Same.              | House, office, and land.  | 18 2 20         | 1 2 0                      | 0 8 0          | 1 10 0                                       |
| 3                                    | Patrick M'Nelis.                     | Same.              | House and land.           | 8 3 20          | 1 15 0                     | 0 5 0          | 2 0 0  |
| 4                                    | John Cassidy.                        | Same.              | House, office, and land.  | 10 2 20         | 1 15 0                     | 0 10 0         | 2 5 0  |
| 5                                    | William Walker.                      | Same.              | House, office, and land.  | 24 1 20         | 2 0 0                      | 0 10 0         | 2 10 0                                       |
| 6                                    | Neal Byrne.                          | Same.              | Land.                     | 2 0 10          | 0 6 0                      | —              | 0 6 0  |
|                                      | Neal Gara.                           |                    |                           |                 | 0 3 0                      | —              | 0 3 0  |
|                                      | John Doherty.                        |                    |                           |                 | 0 3 0                      | —              | 0 3 0  |
| 7                                    | Bridget M'Cunnigan.                  | Same.              | House and land.           | 5 1 30          | 1 0 0                      | 0 5 0          | 1 5 0  |
| 8                                    | Mary Gara.                           | Same.              | House, office, and land.  | 11 0 10         | 2 0 0                      | 0 10 0         | 2 10 0                                       |
| 9                                    | Edward Gara.                         | Same.              | House, office, and land.  | 0 0 0           | 1 0 0                      | 0 5 0          | 1 5 0  |
| 10                                   | John Osborne.                        | Same.              | House, office, and land.  | 19 0 0          | 3 15 0                     | 0 10 0         | 4 5 0  |
|                                      | Jn. Osborne (Johny).                 | Same.              | House and office.         | —               | —                          | 0 5 0          | 0 5 0  |
|                                      | George Osborne.                      |                    |                           |                 |                            | 0 5 0          | 0 5 0  |
|                                      | George Osborne.                      |                    |                           |                 |                            | —              | —  |
| 11                                   | James Osborne.                       | Same.              | Land.                     | 10 0 30         | 1 15 0                     | —              | 1 15 0                                       |
| 12                                   | John Osborne (Johny).                | Same.              | House, office, and land.  | 4 2 20          | 0 15 0                     | —              | 1 0 0  |
| 13                                   | Bridget Carr.                        | Same.              | Land.                     | 6 2 10          | 1 0 0                      | —              | 1 0 0  |
| 14                                   | Francis Carr.                        | Same.              | House and land.           | 8 0 20          | 1 5 0                      | 0 5 0          | 1 10 0                                       |
| 15                                   | James Byrne.                         | Same.              | House and land.           | 3 3 10          | 0 15 0                     | 0 5 0          | 1 0 0  |
| 16                                   | Mary Curry.                          | Same.              | House and land.           | 3 1 10          | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |
| 17                                   | Daniel Curry.                        | Same.              | House, offices, and land. | 13 2 0          | 2 0 0                      | 0 10 0         | 2 10 0                                       |
| 18                                   | Mary Carr.                           | Same.              | House, offices, and land. | 10 0 20         | 1 8 0                      | 0 7 0          | 1 15 0                                       |
| 19                                   | Patrick M'Nelis.                     | Same.              | House, office, and land.  | 15 3 20         | 0 15 0                     | 0 5 0          | 1 0 0  |
|                                      | John Cassidy.                        | Same.              | Mountain.                 | 509 1 4         | 0 15 0                     | —              | 0 15 0                                       |
|                                      | William Walker.                      |                    |                           |                 | 0 15 0                     | —              | 0 15 0                                       |
|                                      | Bridgt. M'Cunnigan.                  |                    |                           |                 | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |
|                                      | Mary Gara.                           |                    |                           |                 | 1 0 0                      | —              | 1 0 0  |
|                                      | Edward Gara.                         |                    |                           |                 | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |
|                                      | John Osborne.                        |                    |                           |                 | 2 0 0                      | —              | 2 0 0  |
|                                      | James Osborne.                       |                    |                           |                 | 0 5 0                      | —              | 0 5 0  |
|                                      | Jn. Osborne (Johny).                 |                    |                           |                 | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |
|                                      | George Osborne.                      |                    |                           |                 | 0 15 0                     | —              | 0 15 0                                       |
|                                      | Bridget Carr.                        |                    |                           |                 | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |
|                                      | Francis Carr.                        |                    |                           |                 | 0 5 0                      | —              | 0 5 0  |
|                                      | James Byrne.                         |                    |                           |                 | 0 5 0                      | —              | 0 5 0  |
|                                      | Mary Curry.                          |                    |                           |                 | 0 15 0                     | —              | 0 15 0                                       |
|                                      | Daniel Curry.                        |                    |                           |                 | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |
|                                      | Mary Carr.                           |                    |                           |                 | 0 5 0                      | —              | 0 5 0  |
|                                      | Owen Gillespie.                      |                    |                           |                 | 0 5 0                      | —              | 0 5 0  |
|                                      | John M'Nelis.                        |                    |                           |                 | 0 10 0                     | —              | 0 10 0                                       |

(注) ドニゴール州グレンコルムキル教区バラードアッパー

(出所) G. Griffith, General Valuation of Rateable Property in Ireland, Dublin (1857)

際の土壌とその下にある岩床の検査に基づくものであった〔Boylan, H., 157-8〕。そして彼による大規模な調査結果は1848年から1864年にかけて公刊されることになるのだが、それは『グリフィス地方税課税評価 (G., Griffith, General

Valuation of Rateable Property in Ireland)』と言われている。その評価結果は州単位、郡単位、救貧区連合単位、教区単位、タウンランド単位に配列されており、土地保有者と家屋保有者毎にリストされている〔Grenham, J., 40〕。



表2はドニゴール州グレンコルムキル教区バ  
ラードアップー・タウンランドのグリフィス地  
方税評価額を示したものである。そこにはタウ  
ンランド、家屋保有者名、土地を貸している直  
接の貸主名、財産の種類（居住家屋、土地、小  
屋）、面積（エーカー）、1年の土地と建物のそ  
れぞれの評価額、全体の評価額の事項が記載さ  
れている。そしてそのリストにはそれぞれ土地  
番号があり、その番号と1837年測量の Ord-  
nance Survey Map をもとにした評価地図  
（Valuation Map）が対応しているのである。こ  
のバラードアップーでは、すべての土地はトー  
マス・コノリーの所領であり、20番の509エーカ  
ーの山地が18人で共同保有されていることがわ  
かるのである。

このようなグリフィス地方税課税評価の原簿  
が土地評価局に現在保管されているが、その原  
簿には土地保有者の変更、貸主の変更、保有面  
積の変更、評価の変更が時代毎に色分けし記載  
されているのである。また、ある段階で新しい  
原簿が作成されてそこにまた色分けした変更が  
加えられているのであるが、それらは Cancell-  
ed Land Book といわれている。これはたとえ  
ばテッペレアリー州クロヒーン教区シャンラハ  
ンでは1856年のグリフィスの地方税土地評価簿  
以降新しく9冊の評価簿が現在まで作成されて  
おり、各評価簿にそれぞれ色分けして変更が記  
載されている。そしてそれらの新しい評価簿の  
作成時期にある程度対応して評価地図が作成さ  
れているのである。しかし、それらの変更を追  
跡するには色分けの変化を辿る苦勞があるもの  
の、それが追跡できれば、そのタウンランド  
の土地に関係する人間関係を明らかにすること  
ができる。その資料自体はわれわれの目的とす  
る家族史研究に対して直接の資料とはなり得に  
くい、先述した人口センサス原簿と照らしあ  
わせれば家族の規範的側面や装置の側面をかな  
り明らかにすることができるといえよう。また  
タウンランドでの共同保有状況（アイルランド  
農村で重要な問題とされている共有地 [com-  
monage] の資料になる）や地主と小作人との関  
係という側面も明らかにすることができるので

ある。

## ② 土地登記簿

アイルランドでは1891年の土地登記法 (Land  
Registration of Title Act) にもとづき1892年  
以降に土地登記の広範囲で確実な体系が提供さ  
れるようになったのである。土地所有権は土地  
登記簿に登記され、登記証書は登記局にファイ  
ルされており、土地財産やその所有権に関する  
あらゆる事項は土地登記局<sup>3)</sup>で登記簿である  
Folio に記載されるのである。そしてその登記  
簿と連動する土地登記簿地図で土地を確認する  
ことが出来るのである。Folio の形式を見てお  
けば、それは第1部である土地所有にはタウ  
ンランド、土地面積、郡名、オーダナンス・サー  
ヴェイ・マップの番号と土地番号、第2部であ  
る所有権の記載には財産の相続人への移転、第  
3部には先行所有権とその通知がそれぞれ記載  
されているのである。

たとえばテッペレアリー州クロヒーン教区シ  
ャンラハンの1事例を見ておこう。その Folio  
にはまずシャンラハンの1区画とキャリッジモ  
アの1区画の記載がみられ、シャンラハンの土  
地は地図87番の土地番号10番にある面積92.27  
エーカーの土地、他方キャリッジモアの土地は、  
地図87番の土地番号2番にある29.323エーカー  
の土地である。そして、1937年に農民ウイリア  
ム・ドイルが完全な所有者になり、1953年にメ  
アリー・ドイルが相続し、1965年にはジェー  
ムズ・ドイルが相続しているが、そのデータ  
から世帯主→妻→息子という相続が明らかにな  
る。またこの土地は1923年時点では土地委員会  
（Land Commission）の所有であり、土地の価  
格は1494ポンドでありそれを71ポンドの年賦を  
支払うことによりウイリアム・ドイルの土地に  
なったことを明らかにしている。これら2区画  
の土地の所在地を地図でみれば、所在地のタウ  
ンランドは違うものの、実際には隣接した土地

3) 土地登記局の概要を把握するには、土地登記  
局のつぎのパフレットが便利である。Land  
Registry and Registry of Deeds Information  
Guide, 1988.

であることが確認でき、その土地の総面積は121.5エーカーの相当広い土地で、しかも住居の背後にある条件の良い土地であることがわかるのである。

以上のような土地登記局の Folio は1920年以降における家族の相続状況を捉える資料になるのであり、それは家族の規範的側面を示す所有の項目を明らかにさせるのである。また、アイルランドの農地改革時の土地委員会からの土地買収の状況を把握する資料にもなりうるのである。

これまでこの資料は松尾太郎教授が指摘されているように、あまりアイルランドの歴史研究には利用されてこなかったといえよう。

### ③ 貧民蝸集地域開発局関連資料

貧民蝸集地域 (Congested District) というのはコーク州、ドニゴール州、ゴールウエー州、ケリー州、レイトリム州、メイヨー州、ロスコモン州、スライゴ州というアイルランド西部地域にある土地条件の悪くしかも密集して居住している地域を指している。そして貧民蝸集地域開発局が1891年に設立され1923年まで継続されるのであるが、それ以降後述するようにそれはアイルランド土地委員会に統合されることになるのである。そしてその開発局は1892年に『貧民蝸集地域開発局基礎報告書 (Congested Districts Board For Ireland, Baseline Report)』を作成したのである。それは現在ダブリン大学トリニティカレッジ図書館に所蔵されている。その報告書は各州から選定された84の地区の詳細なものである。

たとえば、ドニゴール州では North Inishowen, Clonmany, Desertegney, Fanad, Rosguill, Gartan, Brockagh, Dunfananaghy, Cloghaneely, Tory Island, Gweedore, The Rosses, Arranmore, Glenties, Glencolumbkille, Teelin, Killybegs, Inver, Lough Eask, Ballyshannon という20の地区が取り上げられ、それらのドニゴール州の記述が200ページに及んでいるのである。グレンコルムキル地区の場合には、まずその周辺地域の教区単位の統計がみら

れる。調査事項として面積、救貧法における評価、1891年の人口および家族数、2ポンド以上4ポンド以下の保有地をもつ家族数、2ポンド以下の保有地をもつ家族数、貧困家族数、平均家族員数などである。そしてタウンランドの自然的条件、家畜を中心とした経済的状况、漁業従事者や漁業の状況、6人家族の収入と支出、貧困家族の収入と支出、食事、衣服、住居、家庭生活などが詳細に記録されており、それらから19世紀末における家族の生活状況の情報をかなり得ることができるのである。

たとえば、男は夏に6時30分か7時に起き、ミルクを搾り牛を外へ出し、家畜の世話をする。朝食を8時にとり、彼等の農場に仕事に行く。女性はそれらの仕事に援助をし、家で糸を紡ぎ織ったりする仕事をする。2時ごろに食事を1時間ぐらいかけてとり、その後再び仕事をする。夕方7時か8時に牛を入れ、ミルクを搾るが、夏であれば再度外へだすが、冬であれば中にいれる。冬には火は何時も燃やされているが、夏には食事毎につける。冬には彼等は8時ごろまで寝ており、仕事をあまりせずに過ごすと言う。

また食事の内容をみれば、一日3回の食事をとるが、朝食は8時ごろで自家製のパン、トウモロコシのひき割り、バター、ティー、時折ポテトやオートミールのかゆであるという。デナーは午後2時でありポテト、少量の魚、自家製のパン、ティーであり、夕食は8時ごろで内容が朝食と同じであるという。[Congested Districts Board For Ireland, County of Donegal, Glencolumbkille, 10-11]

以上のような農民の生活が描写されているのである。またその報告には視察官による将来この地域の人々の生活をどのように改善すればよいかという提言も見られるのである。

### ④ アイルランド土地委員会関連資料

アイルランドでは1870年の土地法、1881年の

土地法、1903年の土地法（ウィングダム法）、1909年の土地法（バーレル法）により農地改革が実施されることになるが、その時にアイルランド土地委員会（Irish Land Commission）を設置し、それをとおして自作農創設事業を行ったのである。その事業は1891年—1923年までは貧民蝸集地域開発局も行ったが、アイルランド自由国成立後土地委員会に引き継がれることになる。そして農地改革実施段階に地主から土地委員会が一時的に土地を購入するのであるが、その時点における地主との資料が存在しているのである。

土地委員会は地主所領地単位で、土地に関連する資料を保管している。たとえばドニゴール州グレンコルムキル教区はほとんどデリーの商人マスグレーブ所領地（Estate of Henry and Edgar Musgrave）であつた。土地委員会では貧民蝸集地域開発局の作成したグレンコルムキル所領地の農地調査簿（Schedule of Areas）が保管されている。それをみれば43のタウンランドの所領地における面積が売却地と未売却地とに区別されて記載されているが、売却地が19448エーカー、未売却地が1319エーカーで、94%が売却されたことが明らかになる。さらにその資料にはタウンランド毎に借地番号、地図番号、所有者の名前および面積が記入されている。そこから共同保有である共有地の存在も明らかになる。

また1916年におけるマスグレーブと土地委員会との売買予定スケジュールに関する資料（Surveyor's Schedule of Areas）およびそれに関連する土地地図も見られるが、そこには未分割の土地も認められる。

松尾教授は1922年—23年に貧民蝸集地域開発局と旧借地人との間で交わされた「保有地交換契約（Agreement for Exchange of Holding）」、「保有地付加地片売却契約（Agreement in respect of a parcel of land to be sold as 'Additional land' with a holding）」、「所有権付与証書（Vesting Order）」、自作農創設にあたって土地委員会と地主との売買契約書である「保有地売却契約書（Agreement between the Irish

Land Commission and a Tenant for Sale of a Holding）」などの資料を土地委員会で見つけられたようであるが〔松尾、1998〕、筆者はそれらの資料の存在を確認していない。以上からこれらの資料は家族の規範的側面を明らかにするものといえよう。

##### ⑤ 遺言書

アイルランドにおける相続制度は19世紀のある段階で分割相続から不分割相続に変化したとみられるが、それが何時の時代であったのかに関して明確な結論が現在までだされていない。しかもその相続はアイルランドにおける家族の規範的側面を明らかにする重要な要素の1つと見なされるのである。イギリスでは最近高橋基泰教授により16世紀から17世紀におけるケンブリッジの1教区の詳細な遺言書分析が行われている〔高橋、1999〕。しかしアイルランドでははじめてカレン教授によって遺言書自体が資料的に位置付けられ、さらに1865年における地域別に分類された大規模農民の遺言書を1つの資料とした相続研究が行われているのである〔Cullen, L. M., 1982〕。それ以外ではオグロダ教授による遺言書を資料とした相続研究がみられる程度であり〔O'Grada, C., 1988〕、アイルランドではこの遺言書を資料とした研究はほとんど行われていないのである。またアイルランド農村の相続に関しても現在までオグロダ教授〔O'Grada, C., 1980〕、ケネディ教授の相続研究〔Kennedy, L., 1991〕が見られる程度である。

1900年までの遺言書の原本は1922年時点で焼失しているが、アイルランド公文書館には遺言書と遺産管理執行（Wills and Administrations）のアルファベット順のリストが各年度毎に保管されている。たとえばタイローン州の1871年4月29日付けの遺言書をみると、それは遺言者で未亡人であるイザベラ・ホーンが1871年4月13日死亡し、100ポンド以下の個人財産をアーマー州にいる彼女に一番近い親族で農民の息子であるジェームズ・ホーンに譲渡するというものである。〔Grenham, J., 49〕それから遺言者の名前・住所・職業、受け取り人の名前およ

び関係、遺言執行者の名前、遺言の執行日、検認済み遺言書の日付などの情報がえられる。

しかしそれらのリストは膨大なものであり、自分の祖先を探求する目的で探すのであれば可能であるが、それらから州単位、あるいは教区単位である程度のサンプルをとることは容易ではない。しかし公文書館にはウォーターフォード州、ウェックスフォード州、テッペレアリー州の3州の遺言書を収録した Willbooks (Waterford District Registry Copy-Willbooks, 1858-1902) が保管されている。それは1858年以来 District Registry で検認された遺言書の写しであり、各巻の最後に名前のリストがアルファベット順に作成されており、この資料は利用しやすいものといえる。まずそのリストから筆者の調査地域であるテッペレアリー州のみ抽出することができるのであり、つぎの段階では職業（農民、商人、ジェントリーなど）別にサンプルを抽出することができるのである。そしてそれらのサンプルを時系列に並べるならば相続状況の変化の一側面を捉えることができるのである。

そこで Willbooks (1894-1902) からクロヒーン教区シャンラハンに住む農民マイケル・カーシンの遺言書の事例を見ておこう。それは1895年7月20日作成された遺言書であり、クロヒーンにある彼のすべての財産である農場、家畜および動産を妻ジョアンナ・カーシンに譲るというものである。その立会人に神父の名前と同じ同教区のキルカローンの農民であるウォルター・ブラジルの名前が記載されている。したがってこの相続形態は妻による一括相続であることを示している。

以上のような遺言書を資料とすることにより筆者は家族に重要な相続制度の一側面を明らかにできるのではないかと考えている。

#### 結びにかえて

これまでアイルランドの人口センサス、教会記録、英国議会資料、アイルランド政府関係資料の特徴を検討してきたのであるが、それらは主に筆者の関心のある家族史に関係する資料に

限定したものであった。しかし、これらの資料以外にも国立ダブリン大学 (University College Dublin) のアイルランド民俗学研究科 (Department of Irish Folklore) の資料室には1935年に設立されたアイルランド民俗学委員会 (Irish Folklore Commission) によって行われた質問紙による1940年、1941年、1958年の民俗慣行調査（相互扶助慣行や縁組婚など）の原票が保管されている。それらはアイルランドの家族史に関連する重要な資料であり、その資料による成果はオドウドによるアイルランド農村における協同労働研究やアイルランドの移民農業労働者研究 [O'Dowd, A., 1981, 1991] の成果に著わされているが、ここでは触れることができなかった。

またアイルランドの新聞の重要性も忘れられてはならない。アイルランドでは現在 Irish Times と Irish Independent という全国紙があるが、それ以外に約42の地方紙が発刊されている。そして歴史的な価値をもつ Freeman's Journal のような新聞がかなりあるものと思われる。調査地のドニゴール州で1919年に創刊された Donegal Democrat が資料として筆者にとっては重要である。このような新聞についても触れることができなかった。

ところで1845年の大飢饉以降におけるイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアへの移民による末裔が現在それらの国にかなりいるが、彼等のアイルランド・ルーツ探しが盛んであるために、先祖探しのガイドブックの全国版 [Grenham, J., 1999]、そのドニゴール州版 [Duffy, G. F., 1996]、家族史のハンドブック [Yurdan, M., 1990] がかなり出版されている。またアイルランド歴史の公文書の所在を明らかにしてくれるディレクトリー [Helferty, S. & Refausse, R., 1999] があり、筆者もそれらから多くの情報を得ることができた。そして、上述した資料はすべてなんらかの形で筆者がこれまで直接に関わった資料であり、したがってそのような資料を利用して19世紀から20世紀にかけての家族史を明らかにすることが筆者の今後の課題と考えている。

# 参 考 文 献

## 1. 英国議会資料

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (A) and Supplement*, B. P. P., H. C. 1835, xxxii.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (B)*, B. P. P., H. C. 1835, xxxii.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (C) - Part I and II*, B. P. P., H. C. 1835, xxx.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (D) and Supplement*, B. P. P., H. C. 1836, xxxi.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (E) and Supplement*, B. P. P., H. C. 1836, xxxii.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (F)*, B. P. P., H. C. 1836, xxxiii.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer in Ireland Supplement II to Appendices (D) (E) (F)*, B. P. P., H. C. 1836, xxxiv.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer in Ireland Appendix (G)*, B. P. P., H. C. 1836, xxxiv.

*First Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland with Appendix (H) Part I and II*, B. P. P., H. C. 1836, xxxiv.

*Second Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland*, B. P. P., H. C. 1837, xxxi.

*Third Report from His Majesty's Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland*, B. P. P., H. C. 1836, xxx.

*Indexes to Report of Irish Poor Law Commissioners, 1835-1839*, B. P. P., H. C. 1836, xliii.

## 2. アイルランド政府刊行物

Department of Industry and Commerce, *Agric-*

*cultural Statistics 1847-1926*, The Stationery Office, 1930.

Department of Industry and Commerce, *Agricultural Statistics 1927-1933*, The Stationery Office, 1935.

Central Statistics Office, *Agricultural Statistics 1934-1956*, Stationery Office, 1960.

Central Statistics Office, *Agricultural Statistics, 1960*, Stationery Office.

Central Statistics Office, *Census of Agriculture 1991, Detailed Results*, Stationery Office, 1994.

Central Statistics Office, *Census of Agriculture 1991, Rural District Results*, Stationery Office, 1995.

Central Statistics Office, *Farming since the Famine, Irish Farm Statistics 1847-1996*, Stationery Office, 1997.

## 3. 一般書

Boylan, H., (ed.), *A Dictionary of Irish Biography*, 1998.

Connolly, S. J., (ed.), *The Oxford Companion to Irish History*, 1998.

Cullen, L. M., *Wealth, Wills and Inheritance*, 1982 (unpublished).

Duffy, G. F., *Tracing your Donegal Ancestors*, 1996.

Grenaham, J., *Tracing your Irish Ancestors* (second edition), 1999.

Helferty, S. & Refausse, R. (eds.), *Directory Irish Archives* (third edition), 1999.

Kennedy, L., *Farm Succession in Modern Ireland*, *Economic History Review*, XLIV, 3, 1991.

O'Dowd, A., *Meitheal, A Study of Co-operative Labour in Rural Ireland*, 1981.

O'Dowd, A., *Spalpeens and Tattie Hokers*, 1991.

O'Grada, C., *Primogeniture and Ultimogeniture in Rural Ireland*, *Journal of Interdisciplinary History*, x-3, 1980.

O'Grada, C., *Ireland before and after the Famine*, 1988.

O'Neill, K., *Family and Farm in Pre-Famine Ireland*, 1984.

Yurdan, M., *Irish Family History*, 1990.

松尾太郎, 『アイルランド農村の変容』, 論創社, 1998.

高橋基泰, 『村の相伝－親族構造・相続慣行・世代継承』, 刀水書房, 1999.

米村昭二, 『アイルランド農民家族の婚姻』, 『家族史研究』 3, 大月書店, 1981.

〔付記〕 本稿は1998年度桃山学院大学特定個人研究費助成による研究題目「アイルランドの家族史研究」の成果報告である。

## The Documents of the Irish Family History

Yoshifumi SHIMIZU

The aim of these studies is not only to grasp the content on the documents of the Irish family history, but also to examine the significance of its documents.

First, I explain the content of the Irish Census from 1821 to present, especially I have placed the special emphasis on the value of 1901 and 1911 *Census Enumeration* to reconstruct the Irish family in the early twentieth century.

Secondly, I take up the character of the two Church Records, namely Roman Catholic Records and Church of Ireland Records.

Thirdly I treat the characteristics of *Reports from the Commissioners for Inquiring into the Condition of the Poorer Classes in Ireland and Agricultural Statistics of Ireland* which are included in British Parliamentary Papers. I can get many and valuable information of the family life structure before Famine in Ireland from the latter and the time series of agricultural statistics from the mid-19th century to present from the latter.

Fourth I take up the following important official documents, 1) *Tithe Applpotment Book, Field Book, Perambulation Book, General Valuation of Rateable Property in Ireland and Cancelled Land Book* in Valuation Office, 2) *Land Registry Folio* in Land Registry Office, 3) *Congested District Board, Basement Report*, 4) *Document of Irish Land Commission*, 5) *Willbooks*.

First document is to produce the accurate information necessary for local taxation on The Tenement act of 1842. Second is to provide the comprehensive and score system of land registration. Third is the report that the Congested District Board researched in 1891. Forth is the documentation of the landlord estate that is in Irish Land Commission. Willbooks that is kept in National Archives have always the important source of the inheritance system in Ireland.

I think all documents are very useful to take into consideration the Irish family in the early 20th century and I want to study the family structure by using these documents in the near future.